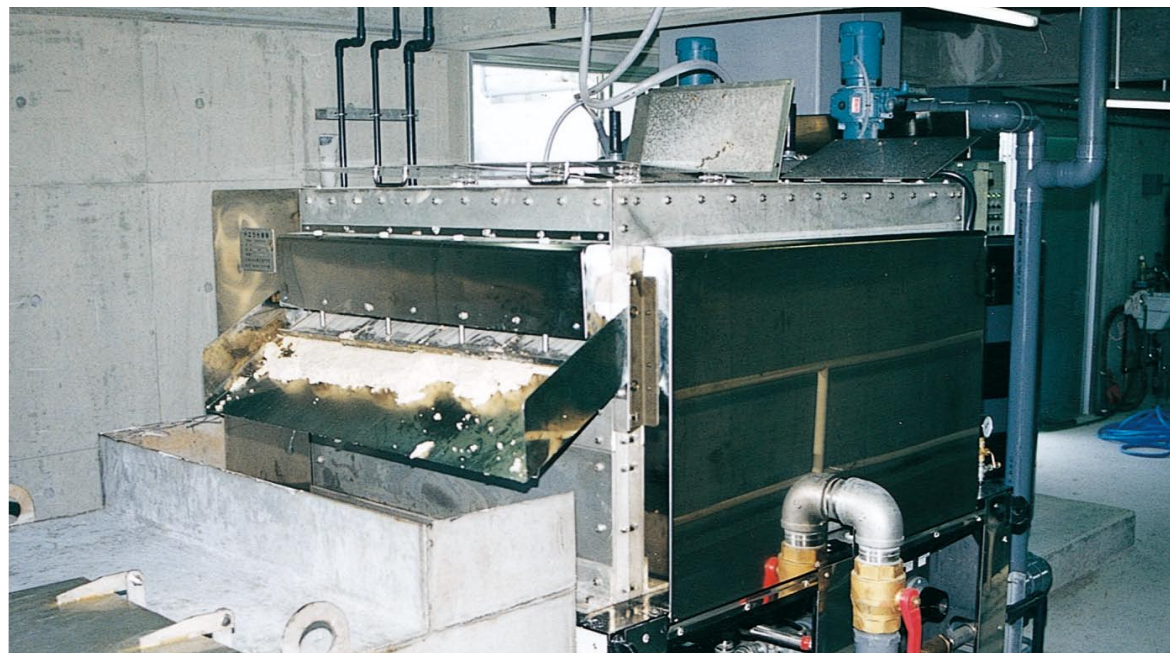


ND・DS型



- 『重力ろ過+圧搾』を脱水原理とする省エネルギー機構で、さらにコンパクト設計のため据付が容易です。特にND型はDS型と比較して設置面積が約70%とさらにコンパクトであり、ユニット装置や移動脱水車への搭載が可能です。
- 目詰まりしない構造のため加圧浮上フロスなど、ろ布式、遠心式では困難な含油汚泥の処理に最適で、高い固形物回収率が得られます。
- ワンタッチ操作で自動運転が行えると共に、特別付属品の液状高分子凝集剤溶解装置をご使用いただくことで、連続運転が可能となります。
- 目詰まりしにくい『ろ体』構造なので、洗浄は1～3時間程度に1回（約7分間）で、ろ布式脱水機と比較しても洗浄水使用量は少量です。
- 本体が半密閉構造で、かつ『ろ体』が超低速回転のため汚泥の飛散がなく、騒音、振動、及び臭気の拡散も少なく、日常のメンテナンスも簡易です。

■用途

1. 余剰汚泥（下水・農業集落排水・尿尿・畜産、食品工場等の各種産業排水）
2. 加圧浮上フロス（食品工場等の各種産業排水）
3. 凝集沈殿汚泥（産廃処分場等の各種産業排水）



ND型

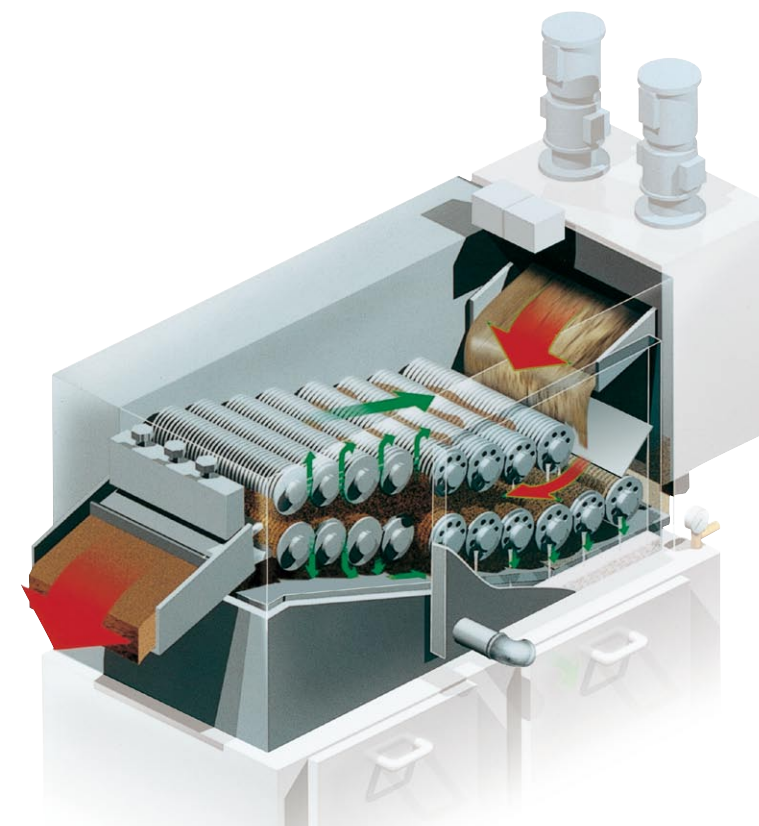


DS型

■機構原理

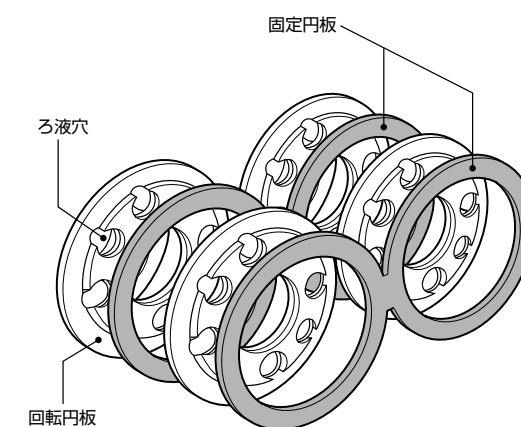
箱型の本体には、シャフトに薄肉のステンレス円板を積層した『ろ体』を上下2段に配置しており、円板の形状により汚泥投入側が『ろ過部ろ体』、ケーキ排出側が『脱水部ろ体』となります。本体へ流入した凝集汚泥は、その水分のみがろ過部ろ体のスリット（0.2mm）を通過して、ろ体シャフト方向に開いたろ液穴を通過して機械側面のろ液口より機外へ排出されます。

濃縮されながら進行する汚泥は、進行方向に向かうにしたがって上下ろ体間隔が狭まっているため、順次圧縮が加えられ脱水が行われます。ろ体の回転が超低速のため、汚泥は他の脱水機のように高速回転や極端な圧力を受けることがなく、『重力ろ過』と『圧搾』の脱水原理で、スポンジ状に排出される脱水ケーキは厚く、内部まで均一した状態となります。



■ろ過部ろ体

『ろ過部ろ体』はシャフトとともに回転する回転円板と2本のシャフトにまたがるメガネ状の固定円板の組み合わせにより構成されています。本構造から固定円板上と回転円板上の汚泥の接点が常にずれを起こし、連続的にスリットの目詰まりを防止しているため高いろ過効率の実現を可能としています。



ろ液穴
回転円板
固定円板

